

# 地域幸福度と住民参画 -地域ソーシャルメディアを用いた実証分析

(Regional Happiness and e-Participation: Empirical Analysis based on Regional Social Media)

田中秀幸<sup>†</sup>

東京大学大学院情報学環<sup>†</sup>

## 1. はじめに

本研究は、地域ソーシャルメディアの利用と住民の地域社会活動への参加との関係を定量的に検証することを目的とする。具体的には、地域の SNS(ソーシャル・ネットワークキング・サービス)内の感情語の出現比率を地域の幸福度合いを示す変数として着目し<sup>1</sup>、実社会での活動との関連を明らかにする。

## 2. 内発的動機付け

本研究では、地域コミュニティ活動への参加要因として、内発的動機付けに注目する。後述のとおり、研究対象の地域 SNS では実社会におけるコミュニティ活動が活発である。報酬を得たり、何らかの金銭的な見返りが見込まれるわけでもないのに、なぜコミュニティ活動に参加するのかを動機付けに基づき考察する。

近年、幸福に関する経済学的研究の中で、幸福の追求には、従来の利己的な経済人としての見方だけではなく、他人を利することで幸福感が増すという見方が指摘されている (Meir and Stutzer, 2008)。その際に重要となるのが、内発的動機付けである。

行動の動機付けには 2 種類ある。第 1 は内発的動機付けであり、第 2 は外発的動機付け (又は外的報酬) である。前者は、「活動することそれ自体がその活動の目的であるような行為の過程、つまり、活動それ自体に内在する報酬のために行う行為の過程」である (デシとフラスト, 1999 邦訳 p. 27)。後者は、活動に伴って得られる外的な報酬を得ることが目的となる。

内発的動機付けに関して、本研究に関連する研究を 2 点説明する。第 1 は、Meir and Stutzer (2008) の研究によるもので、自らの行為によって他人が受けた効用を気にかけるというものである。受け手がよりよい状態になっていることがわかれば、自らの効用も増すことになる。第 2 は、デシらの研究によるもので、正のフィードバックである。ある行為の成果に対して、ほめ言葉のような正のフィードバックがある場合、義務や期待に触れないなど統制の要素がない時には、内発的動機付けを高める。

本研究では、以上のような内発的な動機付けの視点で地域 SNS の内容分析を進めていく。

## 3. 研究対象

本研究は、京都府宇治市を中心とした京都山城地域を対象とした地域 SNS 「お茶っ人」 (2006 年 11 月開始) を研究対象とする。市役所のサーバを使い、運営は宇治市民の任意団体である「宇治大好きネット」が行っている。商用の SNS などと同様に、各個人が自由に記述できる「日記」とテーマを決めて複数の参加者で意見交換などを行う「コミュニティ」などから構成されている。

お茶っ人の特徴は、実社会での活動が活発なところにある。お茶っ人が始まって間もない 2007 年 1 月から 2008 年 12 月末までの 2 年間の間に、お茶っ人を運営する宇治大好きネットが実施した実社会でのイベントは 32 回に及び、平均すれば月 2 回以上の頻度になる (2009 年 3 月地域 SNS 全国フォーラム会場資料による)。

## 4. データ

本研究では、地域 SNS 内の「日記」を対象とした<sup>2</sup>。日記は 2 種類の文書から構成される。本人が書く冒頭の文書と本人又は本人以外のユーザーが付すコメント文書である。地域 SNS 内を利用したコミュニティがある程度醸成されたと見込まれる開設後おおむね一年を経過した 2007 年 10 月 1 日から 2008 年 9 月 30 日までの 1 年間の日記 (SNS 内公開等) を分析対象とした (日記件数 = 5,965 件, 文書総数 = 45,832 文書, 平均文字数 = 152 文字, ユニークユーザー数 = 429 人)。

## 5. 分析方法

日記を構成する文書内の感情語のうち、内発的動機付けに関連する 2 種類を抽出した。第 1 は、Meir and Stutzer (2008) を踏まえて、ユーザーのよりよい状態を表す喜びに関する語 (嬉しい, 楽しい, 幸せなど) である。第 2 は、デシの正のフィードバックを踏まえ、慰労に関する語 (お疲れさまなど) 及び感謝に関する語 (ありがとうなど) を対象とした。

次に、日記を 2 つに区分して、実社会での活動と密接に関係するものとそうでないものとした。具体的には、地域コミュニティの活性につながっている次の 3 つの活動に言及する日記を対象と

<sup>†</sup>Hideyuki Tanaka, The University of Tokyo

した。すなわち、2007 年 12 月に運営団体が自主的に開催した地域 SNS 開始 1 周年記念イベント「わいわいあつまるフェスタ」、2007 年夏開始で 2010 年 1 月現在も続いている「宇治橋商店街サテライトキャンパスミニステージ」、そして、地域の女性コーラス「お茶っ人アカペラ隊」の 3 つである<sup>3</sup>。3 つの活動が話題になっている日記 (R 日記=518 件) とそれ以外 (N 日記=5, 447 件) に分けて、感情語の出現比率を比較した。

### 6. 分析結果

全期間を通じて、各日記を構成する文書内の感情語の出現比率を R 日記と N 日記で比較した。結果は表 1 のとおり、positive 表現 (喜び、感謝) と慰労については、R 日記の方が統計的に有意 ( $P < 0.01$ ) に出現比率が高い一方で、negative 表現 (辛い、きつい、淋しい、不安、怒りなど) については両日記の差は確認できなかった<sup>4</sup>。

	喜び	感謝	慰労	negative
R 日記	0.37	0.28	0.10	0.07
N 日記	0.24	0.15	0.03	0.07

次に、月次ベースで R 日記と N 日記を比較したところ、ほぼ一貫して R 日記で喜び、感謝及び慰労が高いことが確認された (図 1-3)。また、12 月、4 月、8 月頃に R 日記のこれら表現の出現頻度が高くなるが、これらの月には R 日記で言及された実社会でのイベントが開催されている。日記の内容から実際にイベントの後にねぎらいや感謝の言葉がかわされていることを確認した。

### 7. まとめ

本研究によって、研究対象の地域 SNS の日記では、実社会のイベントに言及しているものの方が、positive な感情表現が多く出現していることが確認された。地域 SNS 内の感情表現を地域の幸福度合いを示す変数としてみれば、実社会の活動への参加と地域の幸福度合いが正の関係にあることがわかった。

今回の分析だけでは、イベントへの参加と日記の感情表現の因果関係は必ずしも明らかではないが、デジらの研究を踏まえると、地域 SNS を通じて慰労や感謝を伝えることで、正のフィードバックがもたらされている可能性がある。また、参加者による喜びの感情の共有が、地域での継続的な活動につながっている可能性も考えられる。

今後の課題としては、他地域のソーシャルメディアとの比較や利用者に対するアンケート調査を通じた調査などがある。実社会の活動と地域ソーシャルメディアとの関係をより多角的に分析することが必要である。

### 謝辞

本研究は、科学研究費補助金特定領域研究「情報爆発」の助成を受けておこなった。

- <sup>1</sup> 米国の SNS の Facebook は positive と negative の感情語に基づき Gross National Happiness の指数を公表している。
- <sup>2</sup> 日記等のダウンロード及び内容分析については、設置者である宇治市の了解を得て行った。
- <sup>3</sup> ほかに地域コミュニティの活性化につながる活動はあるが、自主的な取組、かつ、日記で多く言及されるものとしてこれらを対象とした。
- <sup>4</sup> ユーザー個人の文章傾向の影響を排除するために、R 日記に書き込んだことのあるユーザーが関係する N 日記だけに限定しても、結果は同じ。

